



2021年9月13日

気仙沼市立病院研修

3期生Cグループ



## 授業前の知識

研修前の地域病院に関するイメージとして、人手不足、医療の格差、交通の便の悪さ、訪問医療が活発におこなわれている、といった印象だった。

## 授業の目的、到達目標

気仙沼地域の中核病院である気仙沼市立病院が担っている役割、今後の気仙沼の人口の変化に応じてどのように変わっていく必要があるのかといったことを講義、見学を通して学び、未来型医療を創造していくための方法を模索する。

## 授業内容

### **9/13**

#### 抗原検査

病院についてからすぐに抗原検査を受け、陰性が確認されるまで待機。

#### 地域医療

気仙沼における地域医療についての講義。気仙沼の人口は減少している一方で高齢化率は上がっている。そのため急性期医療のニーズは徐々に低下しており、今後は回復期医療にも力を入れる必要がある。

#### 循環器講義

循環器の疾患と高齢化における医療費の使われ方についての講義。

### **9/14**

#### 病院とは

病院には正確な定義があり、我々が普段使う意味とは少し異なること、病床数が地域ごとに細かく管理されていることを学んだ。コンビニ受診の問題についてもふれた。

#### 訪問医療見学 本吉病院

3件の訪問医療の現場を見学し、患者の方にも質問をさせていただいた。訪問すると、どうしても移動に多くの時間を割かれてしまうことが一番の問題であり、外来の診療と比べても点数があまり高くないこともほかの病院が訪問診療の件数を増やすことができないことの要因であると考えられる。



### **9/15**

#### 岩井崎伝承館

震災の爪痕をそのまま残した向洋高校に行き、津波の実際の被害現場を見学した。

#### WOC

皮膚・排泄ケア認定看護師から WOC の概要やチーム医療について講義していただき、ケア会議の事例を紹介していただいたあとに、実際の事例についてどのようなケアをおこなうべきかを学生で検討した。

#### 総合患者支援センター

社会福祉士による総合患者支援センターでおこなっている業務についての講義。介護保険などは申請主義というかたちをとっている。行政が管理しているため仕方ないといった点もあるが、医療従事者側も制度を正しく理解して患者により周知できるようになれば生活が楽になる患者も増えるかもしれない。

#### 胃癌

胃癌の手術的治療は 140 年前の世界で初めて行われた時から変わらず、悪い部分の切除である。そのため、根治よりも治療予後に焦点を当てた医療が行われている。術後に抗がん剤を飲み続けることで予後が良くなるという結果が出ているが、体重減少と抗がん剤継続には相関があり、術後の栄養状態も考慮しなければならない。そのため、看護師の方などと協力して患者の栄養管理に気を配ることで予後を伸ばすといった方法がとられている。

### 9/16

#### 食道がん

リスク因子として主なものは喫煙と飲酒であり、ALDH2 遺伝子によってそのリスクもかなり左右される。がんの発症しやすい部位と、なってしまうと助かるのが難しい部位は同じではなく、乳がんのように女性で発症率がトップだが比較的早期発見がしやすいものや、すい臓がんのように早期発見が難しく、なってしまった場合に助かる確率が低いものもある。

#### 透析センター

透析液をクリーンに保つのにコストがかかる。日本では脳死下腎移植が進んでおらず、去年と今年で腎移植を行ったのはそれぞれ 1 件で、どちらも生体移植だった。長い人で 40 年透析を続けた。

#### 手術見学

整形外科の手術の前に、麻酔科医師による全身麻酔の導入を見学し、途中まで整形外科の手術を見学した。鎮静薬をうってから効くのが予想よりも早く、驚いた。その後、器具を滅菌する場所を見学し、眼科の手術も少し見学させていただいた。

#### 呼吸器疾患概論

呼吸器の疾患のなかで最も多いものが肺炎について。高齢者では誤嚥性肺炎が多い。

#### 影響を受けたこと、研究や仕事に行かせる点

透析に関する知識があまりなかったが、透析が必要な患者は週 3 回、1 回 4 時間の透析が必要となり、毎回太い針を腕に 2 本刺す。腎臓の移植などをしない限りずっと続けることになると思ってからはどれだけの負担であるのを痛感した。糖尿病性腎症による透析患者は少なくなく、日ごろから健康を管理することが改め大切であると感じた。自身の研究でも、疾患のメカニズム解明や治療方法のみではなく、緩和やケアについても視野を広げて考えていく必要があると感じた。

透析液を作るための粉末は乾燥している状態を維持するために、エアコンがドライに設定されており、他の部屋より少し冷たい感じだった。整形外科の手術はその前に一時間ほどの麻酔投入を行い、思ったよりも時間がかかることに驚いた。

治療よりも、退院後の患者さんに病院が提供する総合的な医療サービスや保障が気になります。当院では、回復期の医療ニーズ増加に応じて、医師、看護師、理学療法士、栄養士が連携してリハビリテーション訓練などの治療後の医療サポートを行い、患者さんが健康的な生活状態に戻れるように多職種連携で対応しています。しかし、高齢化が続く現状では、スタッフ不足の難題がある。そのため、高齢者自身が操作できるリハビリ機器を開発し、高齢者が自宅でリハビリを行い、毎日1時間のトレーニングのために通院する手間を省くことが必要とされています。また、高齢者向けの健康管理や食事管理アプリを普及させ、遠隔医療に活用することで、限られた人数の医療従事者が同時により多くの患者を助けることができるようにする。

### 授業の限界、改善点

ASUでの研修のようにひとつの科を重点的に観察し、隠れた具体的なニーズを見つけ出すというところまで深掘ができないのは、地域医療を包括的に学ぶ今回の研修では仕方ないことでもある。

私たちが見たニーズは患者さんのニーズではないかもしれません。見つかった問題も必ず解決しなければならない。一つの点で見つかった問題点は、先生たちのご指導の下で、現場での解決力、特に資料の選別、データ分析、ある原理の下で、デモとか作れるようになるには、一週間ではまだ足りない。

講義のセクションでは、主に病院の現状について、現在と過去の比較や今後どのように発展していくかについての内容を欠けています。今回の現地見学は少し短めで、特定の科に絞って勉強するというものではありませんでした。

### まとめ

最新の医療を提供し、3次救急まで受け入れることができる大学病院に比べ、気仙沼市立病院は2.5次救急までだが、ほとんどの治療はこの病院内でおこなうことができるほど地域病院としては施設や設備が整っているように感じた。今後は治療行為のみを医療行為とするのではなく、回復期にも焦点をあてて多職種の連携、院内外の連携による患者のケアが必要になってくる。

気仙沼市立病院の急性期医療と回復期医療の現状がよく分かった。急性期医療ニーズはさらに減少し、10年後には現在の85%程度となる。回復期医療ニーズは増加し、5～7年後にピークとなった後に減少に転ずる。

高齢者向け医療サービスについては、法的な整備が進んでいるだけでなく、今後の人口動態の変化に合わせて具体的な運用が積極的に進められており、遠隔医療などの新しいコミュニケーション技術の積極的な活用も期待されている。